

小規模多機能型居宅介護「サービス評価」 総括表

法人名	社会福祉法人 長岡福祉協会 高齢者ケアセンター こぶし園	代表者	船越芳之	法人・ 事業所 の特徴	築き上げてきた暮らしを支える。ご利用者の生活・介護（くらし）を支えることを念頭に置き、日常生活の支援を行っています。中重度方でも安心してご自宅での生活が継続できるよう訪問を中心とし通い・宿泊の利用調整を行い援助しております。今まで暮らしてきた生活のスタイルを崩さず要介護状態となってもご自宅で暮らせるように、ご利用者一人一人に寄り添った柔軟な支援をしています。また複合型施設の特徴を生かし、他事業所とのご利用者の交流や地域の方の協力のもとさまざまなアクティビティを取り入れ活動を行っています。
事業所名	小規模多機能型居宅 介護千秋	管理者	阿部恵理子		

出席者	市町村職員	知見を有するもの	地域住民・地域団体	利用者	利用者家族	地域包括支援センター	近隣事業所	事業所職員	その他	合計
	1人	3人	1人	1人	1人	1人	0人	2人	0人	10人

項 目	前回の改善計画	前回の改善計画に対する取り組み・結果	意見	今回の改善計画
A. 事業所自己評価の確認	<ul style="list-style-type: none"> <li>事業所自己評価の改善計画に取り組んでいるか、進捗状況はどのようになっているかを定期的に評価する。項目ごとに担当を決め確実に実行する。</li> <li>職員によってサービス評価に対する理解に差があるため、自己評価前に学習会を行う。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>改善計画に取り組み前年度よりもよくできている項目が多くなっていた。日頃の関わりが実現に向けた取り組みに繋がったと感じている。</li> <li>自己評価前に異動してきた職員中心に説明を行った。前年度からいる職員も不安がある職員には説明を行った。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>職員が忙しい業務の中利用者のために研修し改善に取り組まれている様子が分かった。</li> <li>自己評価の項目を年度途中などで改めて確認する場を持つとよいと思う。できていないこともそこから取り組むことで改善につながる項目があるのではないかな。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>自己評価の項目を年度途中で確認する場を設ける。進捗状況や達成度を共有し、自己評価の項目が日々の業務に活かせるようにする。</li> </ul>
B. 事業所のしつらえ・環境	<ul style="list-style-type: none"> <li>季節感のあるしつらえを行う。事業所入り口を中心に、ご利用者の視覚に入りやすい場所に飾るよう工夫する。</li> <li>感染防止の観点に立った食席やフロア内の清掃、環境整備を今後も継続する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>季節感のあるしつらえを意識し行った。創作活動で作った作品を飾ったり、外出行事の時などはポスターを作成し掲示した。ご利用者同士で創作された時のことを話されたり外出行事を楽しみにしながらご覧になっている様子が見られよかった。</li> <li>掃除や消毒などの感染対策は継続して行った。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>毎月の広報で様子を見させてもらっている。</li> <li>感染対策のため事業所に入っていないので分からない。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>季節ごとにしつらえを変更し雰囲気を楽しんでいただく。創作活動で作成した壁画などを飾るとご利用者の関心も高くなる様子が見えたとため、興味を引くようなしつらえをご利用者と一緒に考えながら環境を整えていく。</li> </ul>
C. 事業所と地域のかかわり	<ul style="list-style-type: none"> <li>広報を作成し地域に配布する仕組みをつくる（配布先に了解を得た後、担当が毎月広報を持参する、など）。</li> <li>広報に掲載してもよいと承諾されている方が平均して載ることができるようできるだけ配慮す</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>今年度も毎月広報を作成し利用者家族に配布した。利用開始時は掲載不可だったご利用者も毎月ご覧になることで「自分も載せて欲しい。」と掲載を希望される方があり。掲載希望の方はできるだけ平均して掲載できるよう配慮し</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>事業所との関わりが制限されている中、広報は事業所を分かっもらえる大事なツールだと思う。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>新型コロナウイルスの感染状況や感染対策に合わせて地域との関わりを増やしていく。感染状況が落ち着いた際にすぐ行動に移せるよう近隣の地域活動の予定を確認していく（運動会や文化祭などへの参加が可能かなど）。</li> </ul>



	る。	た。 ・地域へは単発で薬局や高齢者住宅などに配布したが継続して配布することはできなかった。		・広報は今後も継続する。
D. 地域に向いて本人の暮らしを支える取組み	<ul style="list-style-type: none"> <li>・新型コロナウイルス感染予防を第一に考え、その時の感染状況を見ながら安全な方法で参加していく。</li> <li>・訪問先で地域の方に出会った際は挨拶などの関わりを継続し相談しやすい関係を構築する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地域の行事は今年度も参加者が限定されるか中止になるものが多かった。参加する事業所側としても感染対策を優先するため、積極的に参加することはできなかった。</li> <li>・訪問先で地域の方々とお会いした際は積極的に挨拶をした。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・訪問先で地域の方に挨拶するのはいいことだと思う。お互いが頼りになる存在になるとよい。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・感染状況を見ながら地域活動への参加を行っていく。訪問先で地域の方に出会った際は挨拶などの関わりを継続し相談しやすい関係を構築する。</li> <li>・外出行事は近隣の公園などが多かったが、可能であれば感染対策をしながらご利用者が行きたいところに行けるよう計画する。</li> </ul>
E. 運営推進会議を活かした取組み	<ul style="list-style-type: none"> <li>・運営推進会議では有識者との意見交換などで多くのことを学べ、コロナ禍での地域の課題に気付ける機会にもなる。</li> <li>・次年度も介護職員の出席を継続していく。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・今年度もほとんどが書面開催だったが対面開催を行った際は介護職員も参加することができた。意見交換を活発に行うことができ、日頃接する機会が少ない有識者と接したり話を聞くことで良い経験になったとの感想が聞かれた。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地域の課題を運営推進会議で取り組むことは、地域との交流や行事での関わりがなくなっている中難しいのではないかと感じる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・運営推進会議への参加は日頃接する機会が少ない有識者と接したり話を聞くことができる貴重な場であるため、次年度も介護職員の出席を継続する。</li> </ul>
F. 事業所の防災・災害対策	<ul style="list-style-type: none"> <li>・災害の種類（地震、水害、火災など）によってどのような動きが必要になるのか想定しながら防災訓練を行う。</li> <li>・AED、ライフジャケットの着方など緊急時に慌てずに行えるよう定期的に研修の場を設ける。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・センター内や事業所内での内部研修は行ったが、地域の防災訓練に参加することはできなかった。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・防災訓練や研修を行ったことの報告はあったが実際に見ていないので具体的な内容は分からない。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・センター全体の防災訓練に参加し、適宜マニュアルを変更していく。</li> <li>・防災担当の職員を中心に、ポータブル発電機の使い方や災害用備品の保管場所を定期的に確認する。</li> </ul>